

●地域の負担感に係る現状と課題

市から地域への依頼(2018年4月～9月)を調査。半年で配布回覧95件, 参加動員66件が明らかとなった(別紙資料3-2)。
各生涯学習センターまちづくりサポート担当次長, 担当者等により, 日ごろの地域の声を踏まえて取りまとめたもの。今後対応策を検討する。
[調査期間]2019年(平成31年)2月14日～2月28日

【全市的課題】

- ・まちづくり推進委員会の活動目的が理解されていない。
(何のため, 誰のためのまち推か)
- ・地域づくりの担い手不足(なり手がいない)
- ・役員の負担感(特定の人に負担が偏る)
- ・チラシの回覧依頼が多い。
- ・動員が多い(車移動が負担。同じような行事が多い。時期が被る。)
- ・地域による濃淡(補助金が余る地域, 足りない地域がある。)

【北部】

- ・チラシの配布・回覧依頼が多い。
- ・役員選出依頼が多すぎる。
- ・各種役員の選出が困難
- ・動員依頼が多い。
- ・自家用車での移動が負担
- ・キーワードモデル事業補助金のような補助制度を復活して欲しい
(地域の実態に応じて柔軟に対応できる支援制度を。)
- ・補助金の事務手続きが負担(書類を簡素化して欲しい。)
- ・自治会加入について苦労している。

【松永】

- ・1年を通して回覧物が多い。
- ・動員依頼が負担(回数, 自家用車利用)
- ・地域の人材不足(役員のなり手不足)
- ・近隣市町との連携・支援体制が必要(尾道市側との防災関連情報, ダムの放流情報など)

【南部】

- ・全市で集まる会議を減らしてほしい。
- ・消費税率改定を補助金にも反映してほしい。
- ・事業の見直しや新規事業をする学区が少ない。
- ・補助金があるから事業を申請するのではなく, 事業を実施するために補助金を申請してもらいたい。

【神辺】

- ・動員が多い。
- ・頑張っている学区にもっと補助金を出してほしい。
- ・コミュニティビジネスが出来る支援制度(補助金・交付金)を。
- ・キーワードモデル事業の復活
- ・町内会加入率が低い地域と高い地域で统一的に補助金が交付されるのはおかしい。

【東部】

- ・自治会に届く書類が多い。
- ・目的や内容が似通ったイベントへの動員が多い。
- ・住民学習会の開催が地域への大きな負担, 地域の自主性に任せるべき。
- ・補助金の事務手続きが煩雑
- ・補助金をわざと使い切るようにしている学区がある。
- ・まちづくり関係の似たような補助金をまとめる。
- ・公民館でインターネットを使ったり, パソコンができればよい。
- ・公民館が補助金事務を担うことで負担感を軽減してはどうか。
- ・地域で使用している市有財産の修繕費用が負担

【中部】

- ・担い手不足(統計委員, 民生委員)
- ・在住行政職員が町内会未加入, 地域行事に参加しない。
- ・助成・支援制度が地域へ周知されていない。

